

北海道山小屋フォーラムに参加して

岩村和彦（山のトイレを考える会）

「北海道の山小屋のあり方を考える」と題して北海道山小屋フォーラムが昨年10月に札幌市環境プラザで行われ、当会も招かれました。

第1部は植物写真家の梅沢俊氏による記念講演、第2部が山小屋フォーラムとしてパラダイスヒュッテ・阿部幹雄氏による基調提案が行われました。続いて北海道自然環境課山田幸喜氏、山のトイレを考える会を代表して私・岩村、美瑛富士避難小屋の内藤美佐雄氏の三名から報告がなされ、最後にパネリストとして参加した幌尻岳幌尻山荘の石森充氏ほかの小屋を管理運営している方々を交えての質疑応答の順でした。私を含め報告者の段階で予定時間を大幅に超過したため十分な質疑応答とはならず消化不良気味で終わったのが残念ではありますが、初めて開催した意義は十分にあったものと思われま

北海道には約60近い山小屋があるという。そしてこの大半は避難小屋と言われる管理人が常駐しない無人小屋である。管理人がいる山小屋にしてもその管理主体や運営方法などは様々であり、全ての山小屋が多くの問題を抱えているのが明らかにされた。私からの報告概要は以下の通りである。

1・山のトイレを考える会の歴史と取り組み

- ・ 2000年6月5日、5、6名の有志が集まり設立
- ・ スローガン ①北海道の山をいつまでも楽しむために
②素晴らしい大自然を次世代へ残すために
- ・ トイレ問題解決への呼び掛け
 - ① 山へ入る前にトイレを済まそう
 - ② 山中では出来るだけトイレを使おう
 - ③ 使用済みのトイレ紙は必ず持ち帰ろう
 - ④ 携帯トイレも使ってみよう
 - ⑤ 登山口を含めて必要最低限のところにはトイレを設置しよう
- ・ 過去の活動内容
 - ① 月一回のミーティング
 - ② 2000・8月からの5回に渡る山のトイレフォーラムの実施
 - ③ 2001から全道一斉山トイレデーの実施
 - ④ トイレ問題に関する調査登山、アンケートの実施による実態把握
 - ⑤ 山のトイレマップ、マナーガイドの作成と配布
 - ⑥ ホームページの開設による活動内容の開示
 - ⑦ 2004・9美瑛富士避難小屋清掃登山の実施 糞50 残置紙141の回収
- ・ 今後の取り組み 短期中期長期に分けての施策の実施
 - ①短期—前述の呼び掛け事項①から④までの周知徹底により少な

- くともトイレ問題の改善を図る。その為に出来ることを行う。
- ②中・長期一登山口、山中で必要なところにトイレを設置する。
その為に会として出来ることをする。署名運動やほか山岳関係者との連携も含めて。

2・山小屋とトイレ問題

- ・ 北海道の山小屋の特徴 非営利・避難小屋的性格・無人多い
 - ・ 山小屋へ期待すること他
- ① 非営利が故に登山者へのトイレ問題を始めとする山のマナーへの意識付けが可能。トイレ問題解決へのきっかけ作りの場所として重要である。
 - ② 小屋のトイレ利用を積極的に登山者へ呼びかけて欲しい。料金の徴収も考慮したい。
 - ③ 当会と山小屋のトイレ問題の悩みは共通。当会としても積極的に対応したい。例えば直前の台風で中止にはなったが幌尻岳の尿尿担ぎ下ろしにも協力する。
 - ④ 一軒毎に山小屋のトイレを含めた状況は違う。山小屋毎に解決策を探る必要がある。
 - ⑤ 山小屋のトイレ問題は山小屋の関係者だけで解決は不可能。外への積極的な問題提起、行政との話し合いによる期待値の明確化と利用者、各種山岳団体がバックアップする仕組み作りが必要である。
 - ⑥ 登山者の殆どは善良である。働き掛け方一つで良き協力者になる。その工夫を。

3・山小屋とトイレ問題解決口への糸口

- ・ 山岳団体自体の意識改革 山岳技術の習得以前に徹底した山岳マナーの教育を
- ・ 一極集中の排除 一人ひとりの百名山を作ろう 右ならへ登山の回避
- ・ 無組織登山者への啓蒙を如何にするか。インターネットの活用が今後のキーポイント。山関連のホームページ上での呼び掛けと情報の共有化を計る。

簡略だが以上が報告の概要である。

フォーラムを通じて感じたのは各山小屋の存続と維持管理の困難さである。有人小屋にしても利用者のマナーの問題や夏季の集中による様々な弊害により多くの問題が存在する。中でも共通しているのはトイレ問題であり、それはそのまま山のトイレを考える会の課題でもあるということだ。

北海道山小屋フォーラムの第二回目があるかどうかは分からないが、出来れば次回は十分に質疑応答の時間を取り、じっくりと議論を深めたいものだ。

今後も折に触れ山小屋関係者と連携しながら山のトイレ問題解決へ向けて当会も活動していきたい。

以上